



Title	西フリジア語の音韻と正書法 (1)
Author(s)	清水, 誠
Citation	北海道大學文學部紀要, 44(1), 37-81
Issue Date	1995-08-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33652
Type	departmental bulletin paper
File Information	44(1)_PL37-81.pdf



西フリジア語の音韻と正書法 (1)

清水 誠

Lûdlear en stavering fan it Westerlauwersk Frysk (1)
(The Annual Report on Cultural Science 44-1 (No.85). The Faculty
of Letters. Hokkaido University. Sapporo. Japan. 1995)

SHIMIZU Makoto

音韻 (de lûdlear) と正書法 (de stavering)

§1 はじめに

標準語としての西フリジア語はオランダ語からできるだけ距離を保とうとする一方、規範性が弱く、地域差や社会層による相違の許容度が高い。これはとくに音韻について著しい。辞書に異形がしるされ、文法書の記述に差があるのもこのためである。以下の記述ではもっとも標準的な発音を示すにとどめる。

正書法は1945年と1976年(1980年実施)の2度にわたって改正された。しかし、その改正には不徹底な面があり、音韻体系が複雑なこともあって、習得には困難が伴う。西フリジア語の話者自身、正しい正書法を身につけているのは10%ほどにすぎず、学校教育でも正書法の習得に重点が置かれている。

§2 アルファベット (it alfabet)

アルファベットは次のとおりである。

A	a, â	[a:]	M	m	[ɛm]
B	b	[be:]	N	n	[ɛn]
(C,	c	[se:])	O	o, ô	[o:u]
D	d	[de:]	P	p	[pe:]
E	e, ê	[e:]	(Q	q	[ky])
F	f	[ɛf]	R	r	[ɛr]
G	g	[ge:]	S	s	[ɛs]
H	h	[ha:]	T	t	[te:]
I	i, Y y	[i]	U	u, û, ú	[y]
J	j	[je:]	V	v	[fe:]
K	k	[ka:]	W	w	[ve:]
L	l	[ɛl]	(X	x	[lks])
			Z	z	[zet]

- ① Q/q と X/x はふつう用いない。外来語などを転写する場合には, qu は k または kw とつづり, x は ks とつづる。

kosjint [koʃɪnt] 「(引)き算の) 商」 kwitânsje [kwitɔːˈɲə] 「領収書」
eksamen [ɛksá:mən] 「試験」

- ② C/c は単独では用いず, Ch/ch としてのみ現われる。
- ③ V/v と Z/z は語末と語頭では用いない。これは摩擦音 [v], [z] が語中にしか現われないためである。したがって, 辞書の見出し語には V/v と Z/z の項目がない。
- ④ Y/y は子音字ではなく, 閉音節で I/i [ɪ] にたいして [i] の音を示す母音字である。I/i と区別して Fryske y (または Grykske y, y-grek) と呼ばれることがある。辞書では I/i と同じ箇所に配列される。
- ⑤ その他の母音字として, 小文字に補助記号 (^ : breedteken, ´ : skerpteken) を添えた â, ê, ô, û, ú がある。これは補助記号を除いたもとの母音字と発音上は同じでありながら違う環境に現われる。

場合や、もとの母音字と音質や長さの異なる音を表わす場合に用いる。ただし、大文字ではふつうそれぞれ A (← â), E (← ê), O (← ô), U (← û), U (← ú) とつづる (補助記号をつけた表記も見かけるが、正式には不要である)。辞書ではもとの母音字と同じ箇所に配列される。

- ⑥ 他の補助記号としては、母音字の上に添える分音符 (¨ : trema) があり、音節の切れ目を表わす。

beänte [bəámntə] 「公務員、役人」 ⇔ beamte [bjémtə] 「木々」

see [se:] 「海」 ⇔ seeën [sé:ən] 「海 (複数)」

- ⑦ 以前はおもにアクセントのある語末母音で é の文字を用いたが、今日では ee とつづる (‘旧→新’ の順)。

resumé → resumee [rɪsymé:] 「要約」

sé → see [se:] 「海」 séen → seeën [sé:ən] 「海 (複数形)」

é の文字は、アクセントをもつ e の文字が開音節であいまい母音 [ə] と発音されるのを防ぐために、十数個の語について用いられるにとどまる。

grouwélich [grouvé:ləx] 「ひどい」

oerémis [uəré:mɪs] 「我を忘れた」

音韻 (de lûdlear)

I 母音 (it lûd)

§ 3 はじめに

(1) 母音の種類と特徴

西フリジア語は母音が豊かである。短母音が 10 種類、長母音が 9 種類、二重母音(くだり二重母音)が 11 種類あり、二重母音の一部は「割れ」 (§ 10) と呼ばれる現象によって、語形変化や語形成でいわゆる「のぼり二重母音」(本書では半母音と短母音の連続とみなし、二重母音に含めない)と交替す

ることがある。したがって、次の語は正確に発音して区別する必要がある。

wite [vítə] (← wyt [vit]) 「白い (変化形)」

witte [vítə] 「知っている」

wiidte [vi:tə] 「広さ」

wiete [viətə] (← wiet [viet]) 「ぬれた (変化形)」

wiette [vjítə] 「湿気」

このほかに「割れ」に関連して「短母音化」 (§ 9) の現象があり、さらに「鼻音化」 (§ 8) の現象もある。

本書では半長母音 (it heallange ienlûd) はとくに設定せず、短母音の表記を当てる。また、三重母音 (it trijelûd) は認めない (§ 7 参照)。

アクセントのある語頭母音の前では声門閉鎖音が出ることがある (Sipma 1913 : 15, Fokkema 1967² : 31)。しかし、ドイツ語などと比べてそれほど強くない。これはオランダ語でも同様である。

(2) 閉音節 (it sletten wurdliid) と開音節 (it iepen wurdliid)

以下の表ではカッコ内 (く) につづり字を添えて示す。「閉」は閉音節 (子音字で終わる音節)、「開」は開音節 (母音字で終わる音節) の略である。ここでいう閉音節と開音節は発音上の区別ではなく、アクセントをもつ音節についての正書法上の区別を指す。したがって、発音上の区別とはかならずしも一致しない。西フリジア語の正書法では、開音節でひとつの母音字が長母音、閉音節でひとつの母音字が短母音、閉音節でふたつ重ねた母音字が長母音をそれぞれ表わすものとして、一部で区別することがある (§ 24 (1) 参照)。たとえば、次の 2 語では a が発音上は開音節にあるが、正書法上はそうではない。

pakke [pákə] 「つかむ」: a 閉音節 (pak-ke) → 短母音 [a]

pake [pá:kə] 「祖父」: a 開音節 (pa-ke) → 長母音 [a:]

さらに、wiidte [vi:tə] 「広さ」の [i:] は、発音上は [vi:] - [tə] のように開音節にあるが、正書法上は wiid-te のように閉音節にあるので ii とつづる。これは正書法で 'wiid 「広い」 + -te 「抽象名詞の接尾辞」' という語形

成を明示しているためである。ただし、最近の外来語には例外がある。

§ 4 短母音 (it koarte ienlûd)

(1) 短母音の種類

短母音には次の 10 種類がある。このほかに、それぞれの母音に鼻音化 (§ 8) の現象がある。

☞ 本書では母音の分類に舌の位置の高低による高舌, 中高舌, 中低舌, 低舌の用語を用いる。これは開口度 (口の開き) による狭, 半狭, 半広, 広に対応する用語である。個々の解説では開口度による説明を加えることがある。

	前舌		中舌	後舌
	非円唇	円唇		円唇
高舌	i < y 閉 / i 開 >	y < û 閉 / u 開 >		u < û / oe >
中高舌	I < i 閉 >	ø < u 閉 >		o < o 閉 >
中低舌	ɛ < e 閉 >	ə < e など >		ɔ < o 閉 / a 閉 + 歯音 >
低舌			a < a 閉 >	

(2) 解説と用例

[i] : 口の開きは最も小さく、唇を横に張って緊張させる。[I] との区別に注意。

① y : 閉音節。

fyn [fin] 「細い, 精緻な」 wyt [vit] 「白い」 myn [min] 「私の」

② i : 語末を除く開音節。i [i:] と同様に i [I] とつづる。

fine [finə] 「見つける」 wite [vítə] 「白い (変化形)」

③ y : 語末。

dy [di] 「それ」 party [pāti] 「いくつかの」 juny [jýni] 「六月」

④ -dei [djə, di] (← dei [dai, dei] 「日」) による合成語で本来のフリジア語の語彙。

jierdei [jídjə, ..di] 「誕生日」 tiisdei [tí:zdjə, ..di] 「火曜日」

⇒ nijjersdei [nei(j) iəzdái, ..dēi] 「元日」

feestdei [fé:zdai, ..dei] 「祝日」

-deis [dais, deis], -deisk [dais(k), deis(k)] による合成語は別。

hjoeddeisk [júədais(k), ..deis(k)] 「こんにちの」

hjoeddeis [júədais, ..deis] 「こんにち」

- ⑤ -heid による派生語の発音は一般に [...hit] である。[..hait, ..heit] はつづり字に引きずられた発音であり、一般的ではない。
swierrichheid [swjírəxhit] ([..hait, ..heit]) 「困難」

[I] : 口の開きは [i] より広めで、唇の緊張はゆるい。[i] との区別に注意。機能的には [e:] の短音にあたる (§9 参照)。

- ① i : 閉音節のみ。

fin [fɪn] 「うろこ」-finnen [fɪnən] 「うろこ (複数形)」

ik wit [vɪt] 「私は知っている」-witte [vɪtə] 「知っている」

min [mɪn] 「悪い」 Ingelân [ɪŋəlb:n] 「イギリス」

Drinte [drɪntə] 「ドレンテ (オ. Drenthe オランダ北部の州)」

- ② 外来語でアクセントのある [ɛ] は i [I] で表わすことが多い。
septimber [septɪmbər] 「九月」 eksimpel [eksɪmpəl] 「例」

[ɛ] : 日本語のエとほぼ同じ。

e : アクセントのある閉音節。

beppe [bépə] 「祖母」 wet [vɛt] 「法律」

[a] : 日本語のアよりも奥寄り。前寄りの長母音 [a:] との音質の差に注意。

- ① a : 閉音節のみ。

acht [axt] 「八」 planke [pláŋkə] 「板」

- ② a : 少数の語の語末。

ta [ta] 「..へ, ..について」 sa [sa] 「そのような」

ik ha [ha] (← hawwe [háwə]) 「私はもっている」

- ③ oa : 少数の語。

moandei [mándjə, ..di] 「月曜日」

moatte [mátə, mwátə] 「..なければならない」

- ☞ 母音 [a] をオランダ語のように発音記号 [a] で示す方法もあるが (Sipma 1913), 西フリジア語の母音はオランダ語とちがって「張り/緩み」よりも「長/短」の対立が重要なので (Cohen et al. 1978²: 113), 本書では長母音 [a:] にたいして短母音 [a] の表記を用いる。ただし, 音質の明らかな違いから長母音 [e:] にたいしては短母音 [ɪ] と表記する。

[ɔ]: 唇をまるめて日本語のオよりも口の開きをかなり大きくする。[o] との区別に注意。

① o

bod [bɔt] 「申し出」 sok [sɔk] 「靴下」 klok [klɔk] 「柱時計」
hollich [hɔlɔx] 「穴のあいた, 空腹の」(← hol [hɔl] 「穴」)

② a: 閉音節で歯茎音 s, l, d, t, n の直前('soldaten' と覚える
と便利, z [z], ng [ŋ], nk [ŋk] は除く)。

jas [jɔs] 「ジャケット」 bal [bɔl] 「ボール」 wat [vɔt] 「何」
mad [mɔt] (mêd [mɛ:t]) 「耕地」 plan [plɔn] 「計画」

同じ発音で o とつづる別の語があることに注意。

kast [kɔst] 「戸棚, たんす」-kost [kɔst] 「食料, 食事」

past [pɔst] (← passe [pɔsə]) 「ぴったり合う (過去分詞)」-post
[pɔst] 「郵便」

- ☞ a というつづりはかつての発音 [a] のなごりである (Boersma/Van der Woude 1981²: 93)。

③ a: 「r の脱落」 (§ 15) による黙字の r の直前と, 短母音化 (§ 9) や
「割れ」 (§ 10) によって生じた a は [ɔ] でなく, [a] と発音する。

part [pat] 「部分」(黙字の r) hoanne [wānə] 「にわとり」(割れ)
hastich [hástɔx] (← haast [ha:st] 「性急さ」) 「性急な」(短母音化)

④ a: 例外, 最近の外来語など。

{hy hat [hat]/do hast [hast]} (← hawwe) 「{彼/君} はもっている」

watten [vátɔn] 「綿」 antropology [antropologi] 「人類学」(外来語)

- ☞ 開音節で長母音を示す a は②の歯茎音の直前でも [a:] と発音する。

talen [tá:lən] (← taal [ta:l]) 「言語 (複数形)」

[o] : 唇をまるめてほぼ日本語のオを発音する。[ɔ] との区別に注意。

o : 閉音節のみ。

bot [bot] 「にぶい」 sok [sok] 「そのような」

klok [klok] 「{卵を抱く/ひよこを連れた} めんどり」

hollich [hóləx] 「がんこな」(← holle [hólə] 「頭」)

[u] : 日本語のウよりも口の開きを小さくして唇をまるめる。

① û : n の直前および外来語 (Dijkstra 1992² : 33)。閉音節と開音節。

grûn [grun] 「地面」(n の直前)

gûverneur [guvernøer] 「総督」(外来語)

② û : 対応するオランダ語が ui, eu の場合 (Dijkstra 1992² : 33)。閉音節と開音節。

krûpe [krúpə] 「はう」(オ. kruipen) bûk [buk] 「腹」(オ. buik)

③ oe : 対応するオランダ語が oe, oo の場合、とくに k, ch, g の直前 (Dijkstra 1992² : 31 f.)。閉音節と開音節。oe [uə] との区別に注意。

droech [drux] 「乾いた」(オ. droog)

boek [buk] (稀 [bu:k]) 「本」(オ. boek)

oefening [úfənɪŋ] 「練習」(オ. oefening)

oe というつづりはかつての発音 [o:] のなごりである (Boersma/Van der Woude 1981² : 93)。

[y] : [i] を発音する口のかまえて唇をまるめる。

① ú : 閉音節。ú [y:] と同様に ú [y] とつづる。

nút [nyt] 「クルミ」 tút [tyt] 「キス」

② u : 開音節。

nuten [nýtən] 「クルミ (複数形)」 tuten [týtən] 「キス (複数形)」

(*núttēn, *túttēn とはしない) thús [tys] 「家で」

[ø] : [ɛ] を発音する口のかまえて唇をまるめる。

u : 閉音節。

wurd [vøt] 「語」—wurden [vødən] 「語 (複数形)」

nut [nøt] 「利益」-nutte [nøtə] (← nutsje [nøtʃə]) 「利益になる
(過去分詞)」 tusken [tøskən] 「..の間に」

☞ ドイツ語の können [kœnən] 「..できる」のø[œ]よりも口の開きがやや狭い(Sjölin 1969: 50)。

[ə]: あいまい母音 (schwa)。アクセントをもたない。

① e など: アクセントのない音節 (§ 21 (1)参照)。

se [sə] 「彼女 (ら), 彼ら」 men [mən] 「(話者を含めて一般に)
人は」

belibje [bəlʲbjə] 「経験する」 in [ən] 「不定冠詞」

☞ 語末の e [ə] は特定の名詞で脱落することがある。

ebbe [ébə]/eb [ɛp] 「干潮」 doaze [dōəzə]/doas [doəs] 「袋」

krabbe [krábə]/krab [krap] 「カニ」

② -dei [..djə, ..di] (← dei [dai, dei] 「日」) による合成語で本来の
フリジア語の語彙。

jierdei [jídjə, ..di] 「誕生日」 moandei [mándjə, ..di] 「月曜日」

§ 5 長母音 (it lange ienlûd)

(1) 長母音の種類

長母音には次の 9 種類がある。このほかに、それぞれの長母音に鼻音化 (§ 8) の現象がある。

西フリジア語には母音に長短の対立があり、長母音はオランダ語にくらべてはつきり長く発音する。[I] にたいする [e:] (および [a] (正確には [ɑ]) にたいする [a:]) を除いて、短母音との音質の差はとくにない。

☞ 高舌, 中高舌, 中低舌, 低舌の用語については § 4 (1) 参照。

	前舌		中舌	後舌
	非円唇	円唇		円唇
高舌	i: <ii 閉/i 開>	y: <û 閉/u 開>		u: <û/oe>
中舌	e: <ee 閉/e 開>	ø: <eu>		o: <oo 閉/o 開>
中低舌	ɛ: <ê/(e)>			ɔ: <ô/â>
低舌			a: <aa 閉/a 開>	

(2) 解説と用例

[i:] : [i] の長音。

① ii : 閉音節。

tiid [ti:t] 「時間」 wiid [vi:t] 「広い」 iis [i:s] 「氷」

② i : 開音節。i [i] と同様に i [i:] とつづる。

tiden [ti:dən] 「時間 (複数形)」 wide [vi:də] 「広い (変化形)」

[e:] : 唇を緊張させ、口の開きは [ɛ:] よりも小さい。日本語のイとエの間。ドイツ語やオランダ語の [e:] と同様。[ɛ:] との区別に注意。機能的には i [I] の長音にあたる (§9 参照)。

① ee : 閉音節。

wees [ve:s] 「みなしご」 reed [re:t] 「ドライブ」

② e : 開音節。

wezen [vê:zən] 「みなしご (複数形)」 rede [ré:də] 「理性」

③ ee : 語末およびその変化形と合成語の成分。

see [se:] 「海」 seeën [sé:ən] 「海 (複数形)」

seeman [sé:mən] 「船乗り」

短音の [e] はない。Zantema (1984) では外来語でアクセントをもたず、しかもあいまい母音でない e を次のように半長母音 [e:] と記している (ib. 218)。

e'dysje [e.di:sjə] 「編集」 edu'kaasje [e.duka:sjə] 「教育」

本書では半長母音を認めないので、短母音の [I] を用いて次のように表記する。

edysje [Idɪʃə] 「編集」 edukaasje [Idykā:ʃə] 「教育」

[ɛ:] : [ɛ] の長音。日本語のエーとほぼ同じ。[e:] との区別に注意。

- ① ê : 閉音節と開音節。

rêd [rɛ:t] 「車輪」—rêde [rɛ:də] 「救う」

wês [vɛ:s] (← wêze) 「..であれ (命令形)」—wêzen [vɛ:zən] 「本質」

- ② e : 少数の例外。

bern [bɛ:n] 「子供」

gers [gɛ:s] 「草」

it hat ferzen [fɛ:zən] (← frieze [fríəzə]) 「氷がはった (現在完了形)」

[a:] : 日本語のアーよりも前寄り。後寄りの短母音 [a] との差に注意。

- ① aa : 閉音節。

baan [ba:n] 「コース」

aard [a:t] 「性質」

saad [sa:t] 「井戸」

naad [na:t] 「縫い目」

- ② a : 開音節。

banen [bá:nən] 「コース (複数形)」 saden [sá:dən] 「井戸 (複数形)」

[ɔ:] : [ɔ] の長音。[o:] との区別に注意。

- ① â : ld, lt, n の直前。

âld [ɔ:t] 「古い」

sâlt [sɔ:t] 「塩」

lân [lɔ:n] 「国, 土地」

- ② ô : それ以外。

nôt [nɔ:t] 「穀粒」

stôk [stɔ:k] 「杖」

bôle [bó:lə] 「パン」

- ③ â : l の前に対応するオランダ語の語形に a がある場合 (Dijkstra 1992² : 43)。

stâl [stɔ:l] 「家畜小屋」 (オ. stal)

ただし, stâle [stó:lə] 「芯」 (オ. steel)

- ④ ô : l の前に対応するオランダ語の語形に o がある場合 (Dijkstra 1992² : 43)。

rôlje [ró:ljə] 「転がる」 (オ. rollen)

☞ â というつくりはかつての発音 [a:] のなごりである (Boersma/Van derWoude 1981² : 93)。

[o:] : [o] の長音。[ɔ:] との区別に注意。

- ① oo : 閉音節。

hoopje [hó:pjə] 「希望する」

ik stook [sto:k] (← stoke) 「私は火をたく」

- ② o : 開音節。

hy hat hope [hó:pə] (← hoopje) 「彼は望んだ (現在完了形)」

stoke [stó:kə] 「火をたく」 no't [no:t] 「..なのだから」

[u:] : [u] の長音。

- ① û : n の直前および外来語 (Dijkstra 1992² : 33)。

dûns [du:ⁿs] 「ダンス」(n の直前)

kompiûter [kompjú:tər] 「コンピューター」(外来語)

- ② û : 対応するオランダ語が ui, eu の場合 (Dijkstra 1992² : 33)。

hûs [hu:s] 「家」(オ. huis)

bûgel [bú:ɣəl] 「アイロン」(オ. beugel)

- ③ oe : 対応するオランダ語が oe, oo の場合、とくに k, ch, g の直前 (Dijkstra 1992² : 31 f.)。

skoech [sku:x] 「靴」(オ. schoen)

it roek [ru:k] (← rûke [rú:kə]) 「においがした」(オ. rook)

hy kroep [kru:p] (← krûpe [krúpə]) 「彼は這った」(オ. kroop)

☞ oe というつづりはかつての発音 [o:] のなごりである (Boersma/Van der Woude 1981² : 93)。

[y:] : [y] の長音。

- ① ú : 閉音節。ú [y] と同様に ú [y:] とつづる。

ik snúf [sny:f] (← snuve) 「私は鼻息を立てる」

drúf [dry:f] 「ぶどう」

- ② u : 開音節。u [y] と同様に u [y:] とつづる。

snuve [sný:və] 「鼻息を立てる」

druven [drý:vən] 「ぶどう(複数形)」 nuver [ný:vər] 「異常な」

[ø:] : [ø] の長音。

eu : 閉音節と開音節。

deun [dø:n] 「歌」—deunen [dø:nən] 「歌（複数形）」
sneu [snø:] 「残念な」

§ 6 二重母音 (it twalûd)

(1) 二重母音の種類

二重母音には次の 11 種類があり、後半部があいまい母音 e [ə] の 6 種類と後半部が高舌母音 [i], [y], [u] の 5 種類とに分かれる。いずれも前半部がアクセントをもってやや長く（本書では表記しない）、音節主音になり、後半部が軽く添えられることから「くだり二重母音」(it delgeande twalûd) と呼ばれる。このほかにそれぞれの母音に鼻音化 (§ 8) の現象がある。

☞ 高舌, 中高舌, 中低舌, 低舌の用語については § 4 (1) を参照。

	前舌	中舌	後舌
	非円唇	円唇	円唇
高舌	iə <ie>	yə <ue>	uə <oe>
中高舌	Iə <ea>	ø <eo/(eau)/(eu)>	oi <oi> oə <oa>
中低舌	ei <ij/(ei)/(y)>	œy <ui>	ou <ou/au>
低舌		ai <ai/ei>	

(2) 解説と用例

それぞれの発音については短母音および長母音の解説を参照。

(a) 後半部があいまい母音 e [ə] のもの 6 種類

[iə] : ie とつづる。[Iə] との区別に注意。

ier [iər] 「血管」 hiel [hiəl] 「全体の」 hier [hiər] 「髪」

[Iə] : ea とつづる。[iə] との区別に注意。

ear [Iər] 「耳」 heal [hIəl] 「半分の」 hear [hIər] 「紳士」

[oə] : oa

boat [boæt] 「ボート」 noas [noəs] 「鼻」

[uə] : oe とつづる。oe [u]/[u:] との区別に注意。

doel [duəl] 「目的」 foet [fuət] 「足」

[yə] : ue

nuet [nyət] 「飼いならされた」 kuere [kȳərə] 「見張る」

sluere [slȳərə] 「滑る」

次のようなロマンス語からの外来語にも用いる。

kultuer [køltȳər] 「文化」 natuer [natȳər] 「自然」

[øə] :

- ① eo : たいていの場合。

freon [frøən] 「友だち」 gleon [gløən] 「白熱した」

- ② eu : r の前。

fleur [fløər] 「活気」

- ③ eau : 不定詞語幹 -iuw の強変化動詞の過去形 ([jo:u] もある) と過去分詞など。

hy skreau [skrøə, skrjo:u] 「彼は書いた (過去形)」

hy hat skreaun [skrøən] 「彼は書いた (過去分詞)」

(← skriuwe [skrijwə, skrijō:wə]) kleaune [kløənə] 「糸玉」

他の場合の eau [jo:u] との区別に注意。

skreau [skrjo:u] 「叫び」 skreauwe [skrijō:wə] 「叫ぶ」

(b) 後半部が高舌母音の [i], [y], [u] のもの 5 種類

[ɔu] : 前半部の [ɔ] はかなり低舌で、オランダ語の ou/au [ɔu] と同様にオウよりもむしろアウと聞こえる。本書ではカナ表記でアウとする。

- ① ou, au : つづり分けはオランダ語と同様に歴史的な理由による。

hout [hout] 「木材」(オ. hout) blau[blɔu] 「青い」(オ. blauw)

rou [rɔu] 「粗い」(オ. ruw) rau [rɔu] 「生の」(オ. rauw)

grou [grɔu] 「太った」(オ. grof) grau [grɔu] 「灰色の」(オ. grauw)

- ② e [ə] が続くときはつづり字上 w を伴って ouwe/auwe [ɔuə] となる。

rouwens [rɔ̃uəⁿs] 「粗いこと」 blauwens [blɔ̃uəⁿs] 「青(いこと)」

rouje [rɔ̃ujə] 「喪に服する (-je は動詞派生接尾辞)」

(オ. rouwen) — hy rouwe [rɔ̃uə] 「彼は喪に服した」(オ. rouwde)

dauje [dɔ̃ujə] 「露がおりる (-je は動詞派生接尾辞)」

(オ. dauwen) — it dauwet [dɔ̃uət] 「露がおりる」(オ. het dauwt)

☞ Tiersma (1985 : 14) の発音表記は ou/au [au]。

[œy] : ui とつづる。オランダ語の ui と同様に前半部の [œ] はかなり低舌である。本書ではカナ表記でアイとする。

fluit(e) [flœyt(ə)] 「フルート」 bui [bœy] 「にわか雨」

jui [jœy] 「陶醉」

☞ Tiersma (1985 : 14) の発音表記は ui [øy] だが、前半部は [ø] よりも低舌である。Cohen et al. (1978² : XIV) は ui [Δü] としている。

[ei] :

① ij

bij [bei] 「ミツバチ」 praterij [pra:tərɛi] 「おしゃべり」

② y : 次の人称代名詞と前置詞。

hy [hei] 「彼(主格)」 sy [sei] 「彼女(ら) ; 彼ら(主格)」

wy [vei] 「私たち(主格)」 my [mei] 「私(目的格)」

dy [dei] 「君(目的格)」 by [bei] 「..のところに」

☞ ヴォーデン方言 (Wâldfrysk) の発音は y [i] (Hof 1933 : 178)。

hy [hi] sy [si] wy [vi] my [mi] dy [di] by [bi]

☞ つづり字 y はかつての発音 [i] のなごりであり (Fokkema 1967² : 25), ヴォーデン方言は古形を保っている。一方, ヴォーデン方言では ei を [ai] ではなく, かつての発音どおりに [ei] と発音する (Hof 1933 : 101, Fokkema 1967² : 25)。

③ ei : 上記のヴォーデン方言の発音および最近の外来語。

aktualiteit [aktyalitɛit] 「現状」

universiteit [ynifersitɛit] 「大学」

[ai] : ai, ei とつづり, つづり分けは一定しない。

① ai : 比較的少ない。

maits [maits] 「ウジ」 baitsje [báitə] 「男性用上着・下着」

- ② ei : ヴォーデン方言 (Waldfrysk) で [ei] と発音するもの (上記の [ei] の説明を参照)。

rein [rain, rɛin] 「雨」 neil [nail, nɛil] 「くぎ, 爪」

meitsje [máitʃə, mɛi..] 「作る」

- ☞ ei とつづる語はクライー方言 (Klaaifrysk) で [ai] のほかに [oi] と発音することがあるが (Dijkstra 1992² : 59), 一般的ではなく, 本書では割愛する。

- ☞ 次のような少数の語の [ai] は音節の切れ目に現われ, 縮小形接尾辞 -ke の前で [a:] の短母音化を伴っている。

aike [áikə] (← aai [a:i]) 「卵 (縮小形)」

kaike [káikə] (← kaai [kai]) 「鍵 (縮小形)」

この場合の [ai] は音韻論的には二重母音ではなく, 長母音 /a:/ が短母音化 (§ 9) を起こした /a/ と半母音 /j/ の連続 /aj/ と解釈される (Cohen et al. 1978² : 120)。じっさいの発音は [ai] と同じなので, 本書では発音上の便宜から [ai] と表記する (§ 7 参照)。

- [oi] : oi とつづる。少数の語のみ。oai [oi:] との区別に注意。

muoike [mwóikə] 「おば」 muoie [mwóia] 「残念に思われる」

ruoikje [rwóikjə] 「静かに漕ぐ」

- ☞ oi [oi] を oai と同一の発音として扱ったり, いわゆる三重母音 uoi の一部とする意見があるが, 本書ではこれを独立の二重母音とみなす (Cohen et al. 1978² : 120, Booij 1988 : 10, Booij 1989 : 321)。

oai は ‘長母音 [o:] + [i] (= 半母音 /j/)', uoi は ‘[u] (= 半母音 /w/) + 二重母音 [oi]’ と解釈する (§ 7 参照)。

§ 7 その他の母音の発音

(1) 組み合わせの種類

二重母音とはみなされないが, 発音上注意すべき音の組み合わせがある (< > はつづり字を示す)。

- | | |
|----------------------------|--|
| i) [i:u] (</i:w/ <ieu> | ii) [jyu, jo:u] (</jyw/ , /jo:w/ <iuw> |
| iii) [jo:u] (</jo:w/ <eau> | iv) [o:u] (</o:w/ <o> |
| v) [u(:)i] (</u(:)j/ <oei> | vi) [a:i] (</a:j/ <aai> |
| vii) [oi] (</o:j/ <oai> | viii) [wa:i] (</wa:j/ <oai> |

ix) [wai] (/waj/) <oi>

いずれも音韻論的には長母音または短母音に半母音 /j/, /w/ が添えられたものと解釈される。母音に後続する半母音の部分は、後続母音が付加されると二重母音の場合とちがって後続部の音節初頭音になり、摩擦を伴って子音としてはたらく（再分節化）(Cohen et al. 1978² : 120)。それ以外は母音 [i], [u] と同様の発音になる。次の用例を参照。

- i) ieu [i:u] (/i:w/) 「世紀」—ieuwen [i:wən] ([i:]-[wən], /i:wən/) 「世紀 (複数形)」
 vi) ik paai [pai:] (/pa:j/) 「私はなだめる」—paaie [pá:jə] ([pa:]-[jə], /pá:jə/)

まとめると次のようになる。

- i) [i:wə] (/i:wə/) <ieuwe> ii) [jywə, jo:wə] (/jywə/, /jo:wə/) <iuwe>
 iii) [jo:wə] (/jo:wə/) <eauwe> iv) [o:wə] (/o:wə/) <owe>
 v) [u(:)jə] (/u(:)jə/) <oeie> vi) [a:jə] (/a:jə/) <aaie>
 vii) [o:jə] (/o:jə/) <oaie> viii) [wa:jə] (/wa:jə/) <oaie>
 ix) [wajə] (/wajə/) <oaie>

(2) 解説と用例

[i:u] (/i:w/) : 少数の語のみ。* [iəu] とは発音しないことに注意。

① ieu :

ieu [i:u] 「世紀」 Sieusk [si:usk] 「ゼーラント (Seelân/オランダ Zeeland ; オランダ南西部の州) の ; ゼーラント方言 (オランダ Zeeuws) (の)」

② ieuwe [i:wə] (/i:wə/) : e [ə] が続く場合。

ieuwen [i:wən] 「世紀 (複数形)」

ieuwenâld [i:wənɔ:t] 「何世紀も昔の」

③ 一部の語では iuw [jyu]/ieu [i:u] の語形が併存する。この場合は iuw [jyu] が一般的 (Dijkstra 1992² : 70)。

kiuw [kju:] /kieu [ki:u] 「えら」

miuw [mjyu]/mieu [mi:u] 「カモメ」

☞ [jyu] はほぼフリースラント南部と西部, [jo:u] は北部と東部での発音である (Hof 1933 : 58 ff.).

[jyu, jo:u] (/jyw, jo:w/) :

① iuw :

triuw [trjyu, trjo:u] 「突き, 押し」

ik skriuw [skrjyu, skrjo:u] 「私は書く」

② iuwe [jywə, jo:wə] (/jywə, jo:wə/) : e [ə] が続く場合。

triuwe [trjýwə, trjó:wə] 「突く, 押す」

skriuwe [skrjýwə, skrjó:wə] 「書く」

[jo:u] (/jo:w/) :

① eau :

ik skreau [skrjo:u] 「私は叫ぶ」

② eauwe [jo:wə] (/jo:wə/) : e [ə] が続く場合。

skreauwe [skrjó:wə] 「叫ぶ」

eau [øə, jo:u] (/øə/, /jo:w/) (..iuwe で終わる動詞) との区別に注意。

hy skreau [skrøə, skrjo:u] (← skriuwe) 「彼は書いた」

[o:u] (/o:w/) :

① o :

do [do:u] 「鳩」

jo [jo:u] 「あなた(の)」

ik sko [sko:u] 「私はずらす」

sko [sko:u] 「引き戸」

② owe [o:wə] (/o:wə/) : e [ə] が続く場合。

dowen [dó:wən] 「鳩 (複数形)」 jowes [jó:wəs] 「あなたのもの」

skowe [skó:wə] 「ずらす」

skowen [skó:wən] 「引き戸 (複数形)」

[u(:)i] (/u(:)j/) : * [uəi] とは発音しないことに注意。

① oei :

boei [bu(:)i] 「ブイ」

bloei [blu(:)i] 「(花)盛り」

- ② oeie [u(:)jə] (/u(:)jə/) : e [ə] が続く場合。

boeien [bú(:)jən] 「ブイ」 bloeie [blú(:)jə] 「(花が)咲く」

[ai] (/a:j/) : [a:] の部分はかなり長く、前寄りである。

- ① aai :

kaai [kai] 「鍵」 waaide [vá:ide] 「(風が)吹いた」

- ② aaie [a:jə] (/a:jə/) : e [ə] が続く場合。

kaaie [ká:jən] 「鍵(複数形)」 waaie [vá:jə] 「(風が)吹く」

[oi] (/o:j/) :

- ① oai :

skoai [sko:i] 「物乞い」 moai [mo:i] 「美しい」

koai [ko:i] 「(船室の)寝台」

- ② oaie [o:jə] (/o:jə/) : e [ə] が続く場合。

skoaiie [skó:jə] 「物乞いする」 moaiie [mó:jə] 「美しい(変化形)」

koaiie [kó:jən] 「(船室の)寝室(複数形)」

☞ oai [oəi] の表記もあるが (Tiersma 1985 : 14), 今日では一般的でない。

[wai] (/wa:j/) :

- ① oai :

koai [kwa:i] 「にせ卵 (鳥の巣を荒らしたときに盗んだ卵のかわりに置いておく)」

- ② oaie [wa:jə] (/wa:jə/) : e [ə] が続く場合。

koaiie [kwá:jən] 「にせ卵 (複数形)」

[wai] (/waj/) :

- ① oai :

boai [bwai] ([bo:i] がふつう) 「男の子」

- ② oaie [wajə] (/wajə/) : e [ə] が続く場合。

boaiem [bwájəm] 「床」 (WFT 3 1986 : 8)

II 母音にかんする現象

§ 8 鼻音化 (de nasalearring) と長音化 (de rekking)

(I) 鼻音化

‘母音+n’は摩擦音 f [f], w [v], s [s], z [z], j [j], w [w] と流音 r [r], l [l] の直前で鼻母音になる。これを鼻音化という。本書では母音の次に [ⁿ] を添えて表わす。鼻音化は最近の外来語を除いて規則的に起こる (Riemersma 1979)。

ynfal [ɪⁿfəl] 「思いつき, 侵入」 tsjinwar [tsjɪⁿvar] 「防衛」

âldens [ɔ:dəⁿs] 「年齢」 ynsekt [iⁿsɛkt] 「昆虫」

ienzer [iəⁿzər] (← iens [iəⁿs]) 「一致した, 仲の良い (比較級)」

moanje [mwāⁿjə] 「警告する」 freonlik [frøⁿlæk] 「親切な」

oanrinne [óəⁿrɪnə] 「走り寄る」

ng [ŋ], nk [ŋk] の前では鼻音化が起こらないことに注意。

hingje [hɪŋjə] 「掛かっている」 tankje [táŋkjə] 「感謝する」

(a) 単語間での鼻音化

口語では文中でも隣接する単語間で鼻音化が起こることがある。

sân jier [sɔ:ⁿ jɪər] 「7年間」(Sipma 1913: 99)

myn lân [miⁿ lɔ:n] 「私の国」

yn syn siel [iⁿ siⁿ siəl] 「彼の心の中で」(Tiersma 1985: 144)

(b) 鼻音化と音節

鼻音化は‘母音+n’が同一音節になれば起こらない (Visser 1985 a: 39 f.)。

enoarm [Inwárm] (← [I]-[nwárm]) 「とてつもない」

inoar [ənwár] (← [ə]-[nwár]) 「互いに」

dyn hoaskes [diⁿ wáskəs] 「君のストッキング (縮小形の複数形)」

⇒ dy noaskes [di nwáskəs] 「その鼻 (縮小形の複数形)」

(c) 鼻音化と語形変化

鼻音化の有無によって語形変化のさいに発音に注意を要する動詞があ

る。

wenje [vɛ̃ⁿjə] 「住む」

現在形 ik wenje [vɛ̃ⁿjə] wy wenje [vɛ̃ⁿjə]

do wennest [vɛ̃ⁿəst] 過去形 ik wenne [vɛ̃ⁿə]

hy wennet [vɛ̃ⁿət] 過去分詞 ik haw wenne [vɛ̃ⁿə]

(d) 最近の外来語

最近の外来語には鼻音化が起こらないものがある (Visser 1985 a : 44)。

monstrum [mɔ̃nstrəm] 「怪物」

trans- [trans] 「(接頭辞)..ⁿを越えて」

sjans [ʃans] 「(異性に近づく) チャンス」

(e) 鼻音化が起こらないあいまい母音 [ə]

無アクセントのあいまい母音 [ə] で鼻音化が起こらない語がある (Visser 1985 b : 81)。鼻音化が起こらない場合には後続する n が脱落する。いずれも隣接する音節に主アクセントがある単一語である。

neffens [nɛ̃fəs] 「..ⁿに従って」 pensjoen [pɛ̃ʃuən] 「年金」

mansjester [mɔ̃ʃɛstər]/mansester [mɔ̃sɛstər] 「コールテン」

次の語では鼻音化の有無が揺れている。鼻音化が起こらない場合には後続する n が脱落する。

harsens [hásəⁿs, hásəs] 「脳」(Zanema 1984 : 376)

avensaaasje [avəⁿsá:ʃə]/avesaasje [avəsá:ʃə] 「前進」(ib. 42)

西フリジア語の鼻音化は次の歴史的な事実と関係があると考えられる。すなわち、北海ゲルマン語の特徴 (ingweonismen) として英語やフリジア語では摩擦音の直前の n が消失した。

エ. goose/other フ. goes/oar (<古フ. othar)

<=> オ. gans/ander ド. Gans/ander

オランダ語でも f, ch の直前では n の消失が見られる。

エ. soft/five フ. sêft/fiif オ. zacht/vijf <=> ド. sanft/fünf

鼻音化は n の消失の一手手前であるといえる。じじつ、西フリジア語には goes [gʷəs] 「ガチョウ」に方言的な語形として gâns [gɔ:ⁿs] があり、この形に非鼻音化 ([ɔ:ⁿ] → [ɔ:]) が起これば n は完全に消失することになる (Boersma/Van der Woude

1981²: 70 f.). 上記の(1)(e)の用例を参照。

(2) 長母音化

s [s] と z [z] の直前では鼻音化に長母音化が加わる。[Iⁿ] の長母音は、[I] の長母音が [e:] であるように、[e:ⁿ] になる。

wynsk [vi:ⁿsk] 「斜めの」 finster [fé:ⁿstər] 「窓」
 bernsk [bɛ:ⁿsk] 「子供っぽい」 moarns [mwa:ⁿs] 「朝に」
 gâns [gɔ:ⁿs] 「多くの、まったく」 gûnzje [gú:ⁿʒə] 「ブンブン鳴る」
 tongersdei [tô:ⁿʒdjə, tɔŋɐz..., ..di] 「木曜日」
 húnsk [hy:ⁿsk] 「冷笑的な」 keunst [kø:ⁿst] 「芸術」

(a) 鼻母音の種類

on [oⁿ] では長音化が起こらない (De Haan 1988: 54)。

pronsel [pró:ⁿsəl] 「洋服のしわ」
 slonzich [sló:ⁿzəx] 「だらしない」
 slons [slo:ⁿs]/slonze [sló:ⁿzə] 「だらしない女」

(b) 長母音化とアクセント・音節

長母音化はアクセントをもつ母音を含む音節が直後に続く音節では起こらない。後続する音節がない場合や、あいまい母音 [ə] などのアクセントをもたない音節が直後に続く場合には起こる。

ynsekt [iⁿsékt] 「昆虫」 prinsipe [prIⁿsípe] 「原則」
 finânsjes [finó:ⁿʃəs] 「財政」⇔ finansjeel [finó:ⁿʃé:l] 「財政的な」
 prins [pre:ⁿs] 「王子」⇔ prinses [prIⁿsés] 「王女」
 dûns [du:ⁿs] 「踊り」—dûnser [dú:ⁿsər] 「踊り手」—dûnseres
 [du:ⁿsərés] 「踊り子(女性形)」
 kânsel[kó:ⁿsəl] 「説教壇」—kânselarij[kɔ:ⁿsələrí:] 「事務局, 官庁」

Zantema (1984) では次のような場合にも長音化を認めている。

provin'sjaal [pro.ve:ⁿsja:l] 「地方の」 (ib. 787)
 prin'ses(se) [pre:ⁿses(ə)] 「王女」 (ib. 782)

しかし、これは一般的ではなく、本書では次のように表記する。

provinsjaal [provIⁿʃá:l] 「地方の」

prinses(se) [prIⁿsés(ə)] 「王女」

(c) 単語間と語形成での長母音化

長母音化は複数の単語や合成語の成分にまたがっては起こらない (De Haan 1988 : 51)。

tsjinstân [tʃIⁿsto:n] 「抵抗」 (← tsjin [tʃIⁿ] 「..に対抗して」+stân [sto:n] 「状態」)

moarnsiik [mwá:ⁿsi:k] 「朝に弱い」 (← moarn [moən] 「朝」+siik [si:k] 「病気の」; 「割れ」 (§ 10) 参照)

in tin stikje [əⁿ tIⁿ stÍkja] 「薄い一切れ」

次の合成語では「接合の s」を含む前半部で長音化が起こっている。

moarnsiten [mwá:ⁿzītən] 「朝食」 (← moarn [moən] 「朝」+ -s [s] + iten [ītən] 「食事」)

派生語でも比較的最近の語は長音化を示さない傾向がある。

moarnsk [mwa:ⁿsk] 「朝の」 (← moarn [moən] 「朝」)

⇔ Finsk [fIⁿs(k)] 「フィンランド(人・語)の」 (← Fin [fIⁿ] 「フィンランド人」)

(d) 長母音化と語形変化

動詞の2人称単数現在形 (-st) では他の現在形との類推から長母音化が起こらなくなりつつある。ただし、対応する派生名詞はそうではない。

winne [vÍⁿə] 「得る(不定詞)」:

現在形単数2人称 do winst(新) [vIⁿst] 「君は得る」 < (旧) [ve:ⁿst]

⇔ 単数1・3人称 ik win [vIⁿ]/hy wint [vInt] 複数 wy winne [vÍⁿə]

ただし、対応する派生名詞はそうではない。

winst [ve:ⁿst] 「利益」

§ 9 短母音化 (de ferkoarting)

(1) まとめ

複数形, 縮小形, 派生語, 合成語のように, 語形変化や語形成によって別の音節やある種の子音が加わって, 語が長くなったり音節後半部の構造が複雑になると, これを嫌ってアクセントを持つ母音が逆に短くなることがある。長母音が短くなるときには対応する短母音になり, これを短母音化という。一方, 二重母音について類似した現象を示すのが§ 10 で述べる「割れ」である。短母音化は西フリジア語使用地域全体に広く見られる。短母音化の有無は語彙によって決まっており, 規則性がない。

(a) 長母音の種類から見た短母音化

[i:] → [i] liif [li:f] 「体」→ lyfke [lífkə] 「体 (縮小形)」

[e:] → [ɪ] leech [le:x] 「低い」→ lichte [lɪxtə] 「低さ」

[ɛ:] → [ɛ] brêge [bré:γə] 「橋」→ brechje [bréxjə] 「橋 (縮小形)」

[a:] → [a] aai [a:i] 「卵」→ aike [áikə] 「卵 (縮小形)」

[ɔ:] → [ɔ] hân [hɔ:n] 「手」→ handich [hóndəx] 「手軽な」

(* [o:] → [o] 用例なし)

[u:] → [u] mûs [mu:s] 「ネズミ」→ mûske [múskə] 「ネズミ (縮小形)」

[u] → [y] hûs [hu:s] 「家」→ húslik [hýslək] 「家の」

[y:] → [y] skúf [sky:f] 「すべり戸」→ skúfke [ský(:)fkə] 「すべり戸 (縮小形)」

(* [ø:] → [ø] 用例なし)

(b) 機能的に見た短母音化

① 複数形

lân [lɔ:n] 「国, 土地」→ lannen [lónən]

faam [fa:m] 「女の子, 女中」→ fammen [fámən]

② 縮小形

glês [glɛ:s] 「グラス」→ gleske [gléskə]

lape [lá:pə] 「布切れ」→ lapke [lápke]

③ 派生語 (Tiersma 1979 a : 79 ff.)

i) 名詞

-heid : wiis [vi:s] 「賢い」→ wysheid [vishit, (..hait, ..heit)]/wiisheid [ví:s..]

-ling : hûs [hu:s] 「家」→ húsling [hýslɪŋ] 「(刃物の刃に近い) 取っ手の先端部分」

-nis : begrave [bəgrá:və] 「埋葬する」→ begraffenis [bəgráfənɪs] 「埋葬」

-skip : bliid [bli:t] 「うれしい」→ blydskip [blítstɪp] 「喜び」

-te : siik [si:k] 「病気の」→ sykte [síktə] 「病気」

ii) 形容詞

-ich : haast [ha:st] 「急ぎ」→ hastich [hástəx] 「性急な」

-lik : geriif [gərí:f] 「快適さ」→ geryflik [gəríflək] 「快適な」

-tich : sân [sɔ:n] 「7」→ santich [sántəx] 「70」

-tjin : sân [sɔ:n] 「7」→ santjin [sántjən] 「17」

iii) 動詞

-je : baarch [ba:rx] 「豚」→ bargje [báryjə] 「大騒ぎする」

-kje : gers [gɛ:s] 「草」→ gerskje [gɛskjə] 「(家畜が) 草を食べる」

④ 合成語

hân [hɔ:n] 「手」→ hantekening [hónte:kənɪŋ] 「署名」

stêd [stɛ:t] 「都市」→ stedman [stétmɔn] 「都会人」

piip [pi:p] 「パイプ」→ pypskoft [pípskoft] 「一服, 短い休息」

(c) 子音が後続する場合の短母音化

以上は別の音節が後続する場合の用例である。このほかに、子音だけが後続する場合が少数ある。

派生語：形容詞

-sk : stêd [stɛ:t] 「都会」→ stedsk [stɛtsk] 「都会的な」

⇒ bliede [bliədə] 「血を流す」は次のような変化をする。

現在形単数1人称 ik blied [bliət]

2人称 do {blest [blɛst]/bliedst [bliɛst]}

3人称 hy {blet [blɛt]/bliedt [bliɛt]}

複数 wy bliede [bliɛdə]

過去形 hy blette [blɛtə] 過去分詞 hy hat blet [blɛt]

blet- [blɛt] の e [ɛ] は歴史的にかつての長母音 ē (古フ. blēda, 後に二重母音化して bliede) が短母音化を起こしたものである。英語にも bleed-bled-bled などの類似した変化があることに注意。

類例: briede 「(鳥などが) 卵を温める」 liede 「(鐘が) 鳴る」

riede 「助言する」 riere 「かきまぜる」 sliepe 「眠る」

(2) 個々の特徴

(a) 長母音の種類と後続音の制約

- ① ee/e [e:] の短母音化は少数の派生語に限られる。対応する短母音が i [ɪ] であることに注意。

heech [he:x] 「高い」→ hichte [hɪxtə] 「高さ」

leech [le:x] 「低い」→ lichte [lɪxtə] 「低さ」

reek [re:k] 「煙」→ rikje [rɪkjə] 「煙を出す」

- ② 9 種類の長母音のなかで oo/o [o:], eu [ø] の短母音化は見られない。

- ③ û [u:] は歯茎音の前で ú/u [y] になる語がある。

hûs [hu:s] 「家」:

縮小形 húske [hýskə] 「小さな家, トイレ」/húske [húskə] 「小さな家」

派生語 húsk [hysk] 「家庭的な」 húske [hýskjə] 「住みつく」

húslík [hýslək] 「家の」

合成語 húsfrou [hýsfrou] 「主婦」 húskepapier [hýskəpapiər] 「トイレトペーパー」

- ④ ô, â, ê の短母音化は頻繁に見られるが, ô と ê の短母音化は l の前では起こらない (Bangma 1993²: 78)。

(b) 正書法での区別

短母音化の有無は正書法からは判断できない場合がある。とくに i[i]/[i:] (開音節), ú (閉音節) [y]/[y:] と u (開音節) [y]/[y:], oe[u]/[u(:)], â [u]/[u:] といった高舌母音は、長母音と短母音を正書法で区別しない (§ 24 (1)(a)②参照)。

(c) 短母音化の起こりかた

短母音化は「割れ」 (§ 10) と同様に、アクセントをもつ母音に別の音節やある種の子音が後続した場合を対象とするが、規則性がない。まったく起こらない語、語形変化や語形成の一部だけに起こる語などが多く、個々の語彙について習得する必要がある。

① まったく起こらない語: paad [pa:t] 「小道」

複数形 paden [pá:dən] 縮小形 paadsje [pá:tʃə]

派生語 paadzje [pá:dʒə] 「小道を作る」

合成語 paadwizer [pá:tvizər] 「道しるべ」

② 一部だけに起こる語: tiid [ti:t] 「時間」

複数形 tiden [tí:dən] 縮小形 tydsje [títʃə]

派生語 tidich [tí:dəx] 「時間どおりの」⇔ tydlik [tídlək] 「一時的な」

合成語 tiidwurd [tí:tvøt] 「動詞」⇔ tydskrift [títskrɪft] 「雑誌」

③ 短母音化の有無が揺れている語

短母音化を起こした変化形との類推で、もとの語形の長母音が短母音に変わりつつある場合がある (Tiersma 1979 a : 79)。次の語は今日ではそれぞれ boek [buk], rok [rək] がふつうである。ただし、辞書には長母音と短母音の両方の語形がしるされている。

(新) boek [buk] 「本」 < (旧) boek [bu:k]

⇔ 複数形 boeken [búkən] 縮小形 boekje [búkʃə]

(新) rok [rək] 「スカート」 < (旧) rôk [rɔ:k]

⇔ 複数形 rokken [rókən] 縮小形 rokje [rókʃə]

逆に短母音化を起こした語が衰退しつつある場合もある (Tiersma 1979 a : 81)。

(新) breedte [bré:tə] 「広さ」 < (旧) bridte [brítə]

⇔ breed [bre:t] 「広い」

(d) 複数形と縮小形での相違

短母音化は後続する音節が母音で始まる場合よりも子音で始まる場合のほうが起こりやすい。したがって、複数形よりも縮小形のほうが頻繁に見られる。

tsiis [tsi:s] 「チーズ」→ 複数形 tsizen [tsí:zən]/縮小形 tsyske [tsískə] (以下同様の順)

tafel [tá:fəl] 「テーブル」→ tafels [tá:fəls]/taffeltsje [táfəltʃə]

bêd [bɛ:t] 「ベッド」→ bēden [bē:dən]/bedsje [bétʃə]

☞ 「割れ」 (§ 10) ではこの傾向はそれほど強くない。

複数形での短母音化は単数形が「後舌母音 [a:] / [ɔ:] (/ [u:]) + 子音 [m] / [n] / [s]」の連続を含む場合に多い (Tiersma 1979 a : 90, 94)。

daam [da:m] 「堤防」→ 複数形 dammen [dámən]/縮小形 damke [dámkə] (以下同様の順)

lân [lɔ:n] 「国, 土地」→ lannen [lónən]/lantsje [lóntʃə]

mûs [mu:s] 「ネズミ」→ mûzen [mú:zən]/mûske [múskə] (múske [mýskə])

☞ オランダ語の -en による複数形において (発音上の) 開音節で長母音化が起こるのは対照的である (‘単数形→複数形’の順)。

フ. dak [dak] 「屋根」→ dakken [dákən]

オ. dak [dak] 「屋根」→ daken [dá:kə(n)]

フ. oorloch [óə(r)lɔx] 「戦争」→ oorloggen [óə(r)lɔɣən]

オ. oorlog [ó:rloɔx] 「戦争」→ oorlogen [ó:rlo:ɣə(n)]

ただし、少数の語で次のような場合がある。

フ. hoas [hoəs] 「ストッキング」→ hoazzen [wá:zən]

これは [z] の前で [a] → [a:] となる西フリジア語内部の後代の変化による。

次の語はオランダ語からの借用である。

フ. bad [bɔt, bat] 「入浴, 浴室」→ baden [bá:dən]

☞ 歴史的には短母音化を起こした語形の母音のほうが逆に古く、長母音は本来の短母音の長母音化に由来する場合がある (Fokkema 1967²: 29)。たとえば、次の例では縮

小形の短母音 [ɛ] のほうが古い。

bêd [bɛ:t] 「ベッド」→縮小形 bedsje [bétjə]

基本形の長母音 [ɛ:] は(かつての)有声子音(とくに閉鎖音)の前で [ɛ] が長母音化して生じたものである(古フ. bedd)。この長母音化は [ɛ:] が [Iə] に二重母音化していないことから、「割れ」 (§ 10) が起こったと推定される 17 世紀後半以降の現象といえる (Van der Meer 1977 : 17, 23)。

同様に、次の例でも複数形と縮小形の短母音 [a] のほうが古い。

daam [da:m] 「堤防」→複数形 dammen [dámən]/縮小形 damke [dámkə]

基本形の長母音 [a:] は m の前で [a] が長母音化して生じたものである(古フ. dāmm) (Boersma/Van der Woude 1981² : 51, 57)

☞ 古い時代にさかのぼる短母音化もある。たとえば、(1)(c) の bliede 「血を流す」の説明を参照。

§ 10 「割れ」 (de brekking)

(1) まとめ

長母音の短母音化 (§ 9) に対応して二重母音について起こる変化が「割れ」である。「割れ」はアクセントを持ち、あいまい母音 [ə] で終わるくんだり二重母音 (it delgeande twalûd) がいわゆる「のぼり二重母音」 (it opgeande twalûd) に交替する現象を指す。

ie [iə] → ie [jI] ea [Iə] → ea [jɛ] oe [uə] → uo [wo]

oa [oə] → oa [wa] (ue [yə] → ue [jɔ])

また、いわゆる「のぼり二重母音」を含む語形だけがあって、対応するくんだり二重母音をもつ語形を欠いた語についても「割れ」を起こしているという ((2)(c)参照)。

giin [giIn] 「否定冠詞」

stoarm [stwarm] 「嵐」

「割れ」による上記の交替は次のようにとらえられる。まず、前半部の長めの母音(半長母音)が短母音化を起こし、開口度が狭まって半母音のわたり音(エ. glide; [j]: 前舌母音の前, [w]: 後舌母音の前)になる。わたり音は音節核(音節主音, エ. nucleus)にはなり得ないので、自動的にアクセントが後半部に移動し、あいまい母音が消えて、もとの前半部の母音よりも開口度が1段広い短母音に入れ替わる ([oə] → [wa] では [wɔ])

よりもさらに1段広い短母音になる)。このように、「割れ」は短母音化に伴うアクセントの移動を指す現象である。じっさいの発音ではくんだり二重母音の前半部を長めに、いわゆる「のぼり二重母音」の後半部を短く発音することに注意が必要である。

歴史的には「割れ」は中期フリジア語 (Midfrysk 1550-1800) の中高舌・中低舌母音 [e:], [ɛ:], [o:], [ɔ:] が前半部の高舌化を伴う二重母音化を起こした [i:], [Iɛ], [uo], [oo] から生じたとされる (Van der Meer 1985, さらに Booij 1989, Visser 1990)。この二重母音は、長めの前半部がアクセントを保ったままであれば、後半部が弱化して [iə], [Iə], [úə], [óə] になった。一方、別の音節が後続して語が長くなったり、ある種の子音が後続して音節後半部の構造が複雑になると、それを嫌って長めの前半部が短母音化を起こしてわたり音 [j]/[w] になり、自動的に後半部にアクセントが移動して [jI], [jɛ], [wó], [wɔ] (>[wá]) になった。このことから、いわゆる「のぼり二重母音」の後半部がくんだり二重母音の前半部よりも開口度が1段広い理由が説明される。

'oa [oə] → oa [wa]' の交替は開口度が2段広くなる点で例外的である ([o] → [ɔ] → [a])。[oə] が [wɔ] にとどまらずに [wa] になったのは、「割れ」が起こった時代 (推定で17世紀後半) に西フリジア語には * [wɔ] という組み合わせが許されないという制約があったためと考えられている (Hoekstra 1988)。今日では swan [swɔn] 「白鳥」のように [wɔ] の組み合わせも見られるが、* '[oə] → [wɔ]' という新しい交替は生まれていない。これは後で述べるように、「割れ」が歴史的な現象であり、今日では生産性を失っていることを示している。

「割れ」の発達過程についてはいくつかの意見があるが、現在では Van der Meer (1977) を部分的に改めた Van der Meer (1985) が音声学的な解釈として有力である。Booij (1988, 1989), Visser (1990) はそれに音韻論的な解釈を施したものである。上記の説明もこの3者に基づいている。

「割れ」は「くんだり二重母音からのぼり二重母音への交替」といわれることがある。しかし、「割れ」を起こしたいわゆる「のぼり二重母音」は前半部が半母音であり、厳密には半母音と短母音の組み合わせである (Cohen et al. 1978²: 133, Booij 1988: 19 ff., Booij 1989: 320 ff.)。

一般に二重母音は前半部と後半部の組み合わせに制限があり、種類が限られている。ところが、いわゆる「のぼり二重母音」では [ji] が稀で * [wu] がいないことを除けば組み合わせは自由である (Booij 1989: 322 f.)。また、[wo]/[wa] の [w] は特定の子音の直後で唇歯摩擦音に近づく、[vo]/[va] と発音されることがある (§ 12 (3) (b) 参照)。反論は Visser (1990) 参照。

「割れ」は短母音化と同様に、別の音節やある種の子音が後続したときに特定の語彙を対象として起こる。形態的には複数形や縮小形という語形変化と派生語や合成語という語形成のほかに、形容詞と副詞の比較や動詞の変化にも反映することがあり、短母音化の場合よりもやや範囲が広い。また、短母音化とちがって「割れ」には方言差があり、南西部方言 (Súdwesthoeksk) や島の方言では借用語を除いて「割れ」は見られない (Van der Meer 1985 : 8)。

(a) 二重母音の種類から見た「割れ」

ie [iə] → ie [jɪ]

stien [stiən] 「石」→ stiennen [stjɪnən] 「石 (複数形)」

ea [Iə] → ea [jɛ]

beam [bIəm] 「木」→ beamke [bjémkə] 「木 (縮小形)」

oe [uə] → uo [wo] (この交替にかぎって正書法で規則的に区別する)

stoel [stuəl] 「いす」→ stuollen [stwólən] 「いす (複数形)」

oa [oə] → oa [wa]

doar [doər] 「ドア」→ doarke [dwárkə] 「ドア (縮小形)」

(ue [yə] → ue [jø])

(flues [flyəs] 「膜」→ fluezzen [fljøzən]/fluezen [flýəzən] 「膜 (複数形)」)

(b) 機能的に見た「割れ」 (Tiersma 1979 a : 34 ff., Tiersma 1979 b : 14 f., Van der Meer 1985 : 3 ff.)

① 複数形

trien [triən] 「涙」→ triennen [trjɪnən]

keal [kIəl] 「子牛」→ keallen [kjélən]

foet [fuət] 「足」→ fuotten [fwótən]

soan [soən] 「息子」→ soannen [swánən]

② 縮小形

trien [triən] 「涙」→ trientsje [trjɪntʃə]

keal [kIəl] 「子牛」→ kealtsje [kjéltʃə]

foet [fuət] 「足」→ fuotsje [fwótʃə]

soan [soən] 「息子」→ soantsje [swántʃə]

③ 形容詞と副詞の比較

形容詞と副詞の種類はほぼ次のものに限られる。

原級	比較級	最上級
fier [fiər]「遠い」	fierder [fiɪdər]	fierst [fiɪst]
swier [swiər]「重い」	swierder [swiɪdər]	swierst [swiɪst]
	(<[swjɪdər])	(<[swjɪst])

半母音の連続 [wj] を避けて [j] が脱落する。

djoer [djuər]「高価な」	djoerder [djødər]	djoerst [djøst,
	djuədər]	djuəst]
moai [mo:i]「美しい」	moaier [mwájər,	moaist [mwaist,
(<[moəi])	mó:jər]	mo:ist]
graach 「好んで」	leaver 「むしろ」	leafst 「何よりも」
	[ljé:vər, ljɔ:wər]	[ljəst, ljɔ:ust]

④ 動詞の変化：過去形 (-te/-test/-ten)

動詞の種類はほぼ次のものに限られる。

sliepe [slíəpə] 「眠る (不定詞)」:

過去形単数 1 人称 ik {sliepte [sljɪptə]/slepte [sléptə]}

2 人称 do {slieptest [sljɪptəst]/sleptest [sléptəst]}

3 人称 hy {sliepte [sljɪptə]/slepte [sléptə]}

複数 wy {sliepten [sljɪptən]/slepten [sléptən]}

⇒現在形複数 wy sliepe [slíəpə]

slepte- [sléptə] の e [e] はかつての長母音 ē の短母音化による (§ 9(1)(c)参照)。

doare [dóəra] (doarre[dwára]) 「あえて..する」の変化形にも[..wa..]/[..əə..] の両方がある。

⑤ 派生語

i) 名詞

- ens : moai [mo:i] 「美しい」→ moaiens [mwájəⁿs, mó:jəⁿs] 「美しさ」
- heid : wier [viər] 「本当の」→ wierheid [vjírhit, (...hait, ...heit) ; víər...] 「真実」
- ing : keat [kIət] 「鎖の個々の輪」→ keatting [kjétIŋ] 「(個々の輪がつながった) 鎖」
- ling : foet [fuət] 「足」→ fuotling [fwótIŋ] 「(ストッキングなどの) 足の部分」
- sel : riede [ríədə] 「推測する」→ riedsel [rjít^səl, ríətsəl] 「なぞ」
- skip : boade [bóədə] 「使者」→ boadskip [bwátskIp] 「買い物, 使い」
- te : fier [fiər] 「遠い」→ fierte [fjítə] 「遠さ」

ii) 形容詞

- eftich : keal [kIəl] 「子牛」→ kealeftich [kjélfə^təx] 「子牛のような」
- en : poen [spuən] 「削りくず」→ spuonnen [spwónən] 「削りくずでできた」
- ich : beam [bIəm] 「木」→ beammich [bjéməx] 「木が多い」
- erich : bloed [bluət] 「血」→ bluodderich [blwó^də^rəx] 「血まみれの」
- drich : moade [móədə] 「流行」→ moadrich [mwádrəx] 「流行の」
- lik : goed [guət] 「良い」→ guodlik [gwó^dlək] 「善良な」
- sum : ien [iən] 「1」→ iensum [jɪ:ⁿsəm, íəⁿsəm] 「孤独な」

iii) 名詞および形容詞 (地名)

- mer : Sleat [slIət] 「スレアト (オ. Sloten スローテン)」→ Sleat-(te)mer [sljét(ə)mər] 「スレアトの (人)」
- ster : (Alde-) Boarn [(ɔ:də) bóən] 「(オーデ) ボアン (オ. Olde-) Boorn (オルデ) ボールン)」→ Boarnster [bwá:ⁿstər] 「(オーデ) ボアンの (人)」

iv) 動詞

- je : trien [triən] 「涙」→ trienje [trjɛ̃nʲə] 「涙を流す」
- kje : boer [buər] 「農夫」→ buorkje [bwórkjə] 「農業を営む」
- tsje : tean [tɪən] 「足の指, つま先」→ teantsje [tjé̃ntʲə] 「つま先で歩く」

⑥ 合成語

- trien [triən] 「涙」→ trieneach [trjɛ̃nɪəx] 「涙を浮かべた目」
- keal [kɪəl] 「子牛」→ keallefleis [kjéləflais, ..fleis] 「子牛の肉」
- foet [fuət] 「足」→ fuotgonger [fwótgogər] 「歩行者」
- moarn [moən] 「朝」→ moarnsiten [mwáːˈzitən] 「朝食」

(c) 子音が後続した場合の「割れ」

以上は別の音節が後続する場合の用例である。このほかに子音だけが後続する場合が少数ある。

① 動詞の変化：現在形単数 2・3 人称 (-t, -st), 過去分詞 (-t)

動詞の種類はほぼ次のものに限られる。

sliepe [slíepə] 「眠る (不定詞)」 (Fokkema 1967² : 64, Tiersma 1985 : 22) :

現在形単数 2 人称 do {sliepst [sljɪpst]/slepst [slɛpst]}

3 人称 hy {sliept [sljɪpt]/slept [slɛpt]}

過去分詞 hy hat {sliept [sljɪpt]/slept [slɛpt]}

⇔現在形単数 1 人称 ik sliep [slíep]

☞ slep- [slɛp] の e [ɛ] はかつての長母音 ê の短母音化による (§ 9(1)(c)参照)。

gean [gɪən] 「行く (不定詞)」 (Zantema 1984 : 324) :

現在形単数 2 人称 do giest [gɪɪst, giəst]

3 人称 hy giet [gɪɪt, giət]

⇔現在形単数 1 人称 ik gean [gɪən]

過去形単数 {ik/hy} gie [giə] do giest [giəst]

過去分詞 hy is gien [giən]

☞ doare [dóəra] (doarre [dwára]) 「あえて..する」の変化形にも [..wa..]/[..oə..]

の両方がある。

② 派生語

i) 形容詞

-sk: priemsk [priəm] 「編針」→ priemsk [prjɪmsk] 「とがった」
moarn [moən] 「朝」→ moarsnk [mwa:ˈsk] 「朝の」

ii) 副詞

-s: moarn [moən] 「朝」→ moarns [mwa:ˈs] 「朝に」

☞ 英語の only [ˈʊnli]/lonely [lɒnli]/alone [əˈləʊn] と one [wʌn]/once [wʌns] の相違は西フリジア語の「割れ」に類似している。

(2) 個々の特徴

(a) 後続音の制約と二重母音の種類による頻度

「割れ」は母音や軟口蓋子音 g [ɣ], ch [x] の直前では起こらない。
唇歯摩擦音 f [f], v [v] の直前でも稀である。

後半部にあいまい母音を伴う 6 種類のくだり二重母音のなかで、「割れ」を起こすのは eo/eau/eu [øə] を除く 5 種類である(この音は前半部の [ø] より開口度大きい円唇の短母音がない。歴史的には(1)の説明を参照)。残りの 5 種類のなかでは 'oe [uə] → uo [wo]' の交替が最も多く (Tiersma 1979 a : 50), 正書法でも規則的に区別して示す。

反対に 'ue [yə] → ue [jə]' の例はひじょうに少なく、「割れ」に含めない扱いをすることもある。たとえば、次の語のペアは正書法で「割れ」の有無が区別されているというより、むしろ別々の語として扱われる。

sluere [sljɔərə] 「滑る」-sljurkje [sljɔrkjə] 「静かに滑る」

次の用例もこれに準じる (Sipma 1913 : 22)。

fjoer [fjuər] (fuer [fyər]) 「火」:

複数形 fjurren [fjɔrən] 縮小形 fjurke [fjɔrkə]

派生語 fjurje [fjɔrjə] 「発砲する」 fjurrich [fjɔrɛx] 「熱烈な」

(b) 正書法での区別

「割れ」の有無は正書法から判断できない場合が多い。正書法で区別す

る方法としては母音字の変更と子音字の重複がある (§ 24 (1)参照)。

① 母音字の変更

‘oe [oə] → uo [wo]’ の交替は規則的に母音字を変更して表記する。

boerd [buət] 「台」→複数形 buorden [bwóðən]/縮小形 buordsje [bwótʃə]

対応するくんだり二重母音をもつ語形を欠くものは, oa [wa] を除いて規則的に ji [jɪ], je [jɛ], uo [wo] と表記する。

djip [djip] 「深い」 stjerre [stjéɾə] 「死ぬ」 guod [gwot] 「物」

⇔ boarst [bwast] 「胸」 koart [kwat] 「短い」

② 子音字の重複

子音字が1つだけ後続するときは規則的に子音を重複する。

bien [biən] 「骨」→複数形 biennen [bjɪnən]

子音字が2つ以上後続するときには重複せず, あいまいである。

bien [biən] 「骨」→縮小形 bientsje [bjɪntʃə]

feart [flət] 「運河, 航行」→複数形 fearten [fjɛtən]/縮小形

feartsje [fjɛtʃə]

board [boət] 「甲板」⇔ board [bwat] 「(皿をのせる) 盆」

「割れ」を十分に表記しない中途半端な正書法は「割れ」の消失に拍車をかけている。「割れ」の衰退は西フリジア語の衰退を示す一例であり, 「割れ」の不十分な表記は西フリジア語の正書法の最大の欠陥といえる。

- ☞ フリジア語学の T. ファイツマ氏 (Tony Feitsma) と作家で言語学者でもある T. リエメスマ氏 (Trinus Riemersma) は, 「割れ」の有無をはっきり示す独自の正書法を用いて著作を発表している。

(c) 対応するくんだり二重母音をもつ語形がないもの

対応するくんだり二重母音を含む語形を欠き, 語形変化や語形成による交替とは関係なく「割れ」を起こしたいわゆる「のぼり二重母音」を示す孤立した語がある。とくに r およびそれに後続する子音との組み合わせが多い。

- ☞ かつての変化形からの類推によるものも含まれる。たとえば, 次の形容詞は変化語尾

-e がついた語形からの類推を受けて定着したものと考えられる (Tiersma 1979 a : 23, Van der Meer 1986 : 47)。

skjin [skjIn] 「清潔な」 toar [twar] 「不毛な」

☞ 下記の語のなかにはもともと二重母音を含まず、短母音から発達したものがあり、本章で扱ってきた「割れ」とは別の性格をもつ可能性がある (Lieberman 1987 : 129)。

① [jI]

hjir [jIr] 「ここ」 hjit [jIt] 「暑い」
fjild [fjIlt] 「野原」 strjitte [strjItə] 「通り」

② [je]

earnst [jɛːnst] 「まじめさ」 hearre [jérə] 「聞く」
tjems [tjɛms] 「フィルター」 hjerst [jɛst] 「秋」

③ [wo]

guon [gwon] 「いくつかの」 muorre [mwórə] 「壁」
fuort [fwot] 「離れて」 muonts [mwonts] 「修道僧」

④ [wa]

koark [kwark] 「コルク栓」 smoarch [smwarx] 「きたない」
foarm [fwarm] 「形」 woarst [(v)wast] 「ソーセージ」
doarp [dwarp] 「村」 board [bwat] 「(皿をのせる)盆」
boarne [bwánə] 「泉」 skoalle [skwáɫə] 「学校」

☞ [jɔ] の例には lju [ljɔ] 「人々」 bjuister [bjɔstər] 「変な」 などがある。(1)で述べたように、[j]/[w] と後続する母音の組み合わせには [ji] (稀)/*[wu] (不可) を除いて制限がない。

☞ '[j]/[w]+母音' の連続には「割れ」以外に次の3種類がある (Visser 1990 : 266)。

i) 古フリジア語の「割れ」(Aldfryske brekking) (Heuser 1903 : 12, Steller 1928 : 11, Holthausen/Hofmann 1985²⁾)

-cht の直前で e/i > iu :

西フ. rjocht 「正しい」(古フ. riucht/riocht < *rihti)

-ng(w)/-(n)k(w) の直前で i > iu (w-Umlaut とomいう) :

西フ. sjonge 「歌う」(古フ. siunga/sionga < *singwan)

西フ. tsjok (-te) 「厚い(さ)」(古フ. thiukke < *thi(c)kwit)

ii) -iuwe/-eauwe (<i-) で終わるいくつかの動詞

skriuwe [skrjýwə, skrjó:wə] 「書く」(古フ. skrīva)

skreauwe [skrjô:wə] 「叫ぶ」(古フ. skria)

iii) ew>jou [jou] の変化によるもの

Ljouwert [ljúwət] 「リャウエト(オ. Leeuwarden レーワルデン)」(<Lewert)

(d) 「割れ」の起こりかた

「割れ」は短母音化と同様に特定の語彙に限られ、規則性がない。まったく起こらない語、一部だけに起こる語などがあり、個々の語彙について習得する必要がある。

① まったく起こらない語 (ch [x], g [ɣ] の直前など)

each [Iæx] 「目」→複数形 eagen [Iæɣən] 縮小形 eachje [Iæxjə]
派生語 eagje [Iæɣjə] 「見つめる」 eachlik [Iæxlək] 「目の保養になる」

合成語 eachdokter [Iæɣdɔktər] 「眼科医」

hier [hiər] 「貸借、家賃」→複数形 hieren [hiərən]

派生語 hiere [hiərə] 「借りる」 hierder [hiədər] 「大家」

合成語 hierjierren [hiərjIərən] 「貸借期間」 hierkontrakt
[hiərkontrakt] 「貸借契約」

② 一部だけに起こる語：

doaze [dóəzə] (doas [doəs] 「箱」)

→複数形 doazen [dóəzən] 縮小形 doaske [dwáskə]

keap [kIəp] 「購入」

→派生語 keapje [kIəpjə] 「買う」 keaper [kIəpər] 「買い手」

合成語 keappriis [kIəpri:s] 「売値」 keappenskip [kjépənskIp]
「商業」

bloed [bluət] 「血」

→派生語 bloedich [blúədəx] 「血のついた」 bluodderich
[blwódərəx] 「血まみれの」

hier [hiər] 「毛」

→複数形 hierren [jIərən] 縮小形 hierke [jIrkə, hiərəkə]

派生語 hierje [jIrjə] 「毛が生え変わる」 hierren [jIərən] 「毛製

の」

合成語 hierknippe [hɪərknɪpə] 「散髪する」 hierkaam [hɪərka:m] 「櫛」

③ 「割れ」の有無が揺れている語

earm [jɛrm, Iərm] 「腕」 ears [jɛs, Iəs] 「尻」

noard [nwat, noət] 「北」

ienentweintich [jɪnəntvaintəx, ..tvəintəx; iən..] 「21」

ierappel [jɪrapəl, jərapəl, iərapəl, iərapəl] 「ジャガイモ」

(← ierde [iədə] 「土, 地面」+appel 「リンゴ」)

-earje [jɛrjə] : studearje [stydjɛrjə, ..dɪərjə] 「大学で学ぶ」

④ 「割れ」の有無による意味・品詞・用法の差がある語

i) leaf [lɪəf] 「いとしい, 好きな」—比較級 leaver [lɪəvər]—最上級 leafst [lɪəfst]

graach 「好んで」—比較級 leaver [ljɛvər, ljɔ:wər] 「むしろ」—最上級 leafst [ljɛst, ljɔ:rust] 「何よりも」

ii) foar [fwar, far, fər] :

前置詞+名詞 foar de doar 「ドアの前に」 foar dy 「君のために」

合成語 foarby [fwabéi, fa.., fə..] 「..を通過して」

foardoar [fwádoər, fá..] 「正面玄関」

foar [fɔər] :

‘代名詞の der’+前置詞 Wy binne der net foar. 「私たちはそれに賛成ではない」 (Bosma-Banning 1981² : 44)

✶ Van der Meer (1985 : 138-256) には「割れ」を起こすすべての語(当時の調査で(1435語))が記載されている。個々のくわしい統計については Van der Meer (1986 : 49 ff.) 参照。

(e) 「割れ」の性格

「割れ」は西フリジア語の重要な特徴であり、使用頻度の高い語を多く含んでいる。しかし、今日ではすでに生産性を失っており、「割れ」を起こす語は語彙的に固定している。しかも、語形変化や語形成での類推に

よる単純化やオランダ語の影響、中途半端な正書法などから現在では衰退しつつある。比較的「割れ」が保たれやすいのは次のような場合である。

① 合成語の意味が「不透明」な場合

一般に合成語では「割れ」が起こりにくく、とくに新しい合成語では起こりにくい。古くから見られ、全体として意味が固定した「不透明」な合成語は「割れ」を保つことが多く、各成分に意味が分析できる「透明」な合成語は若い世代で「割れ」を起こさない傾向が強い (Tiersma 1979 a : 61, Van der Meer 1985 : 87 ff.)。

earizer [jɛrɪzər] 「イエリーゼル (金銀をあしらった伝統的な婦人用の頭巾)」

⇒ earlapke [fɛrlapke] 「(防寒用の) 耳覆い」(← ear [fɛr] 「耳」+ lapke 「布切れ」)

ierdbai [jɪdbai, ..bei] 「いちご」

⇒ ierdryk [fɛtrɪk] 「世界」(← ierde[fɛdə] 「地球, 大地」+ ryk 「国」) skoarstien [skwɑʃən] 「煙突」

⇒ skoarbalke [skɔərbalkə, skwár..] 「支梁, 支柱」(← skoar [skoər] 「支え」+ balke 「角材」)

② 複数形と縮小形の頻度が高い場合と類推

頻度が高い語は複数形や縮小形で「割れ」を保つことが多い (Tiersma 1979 a : 60 f., Tiersma 1979 b : 3 ff.)。たとえば、次の語はじっさいに複数形で用いることが多い (‘単数形→複数形’の順)。

trien [triən] 「涙」→ triennen [trjɪnən]

fear [fɛər] 「羽」→ fearren [fjɛrən]

hoas [hoəs] 「ストッキング」→ hoazzen [wɑ:zən]

tean [tɪən] 「足の指」→ teannen [tjɛnən]

skoech [sku(:)x] 「靴」→ skuon [skwon]

次の語は縮小形で用いるほうが多く、縮小形だけに「割れ」が見られる。

doaze [doəzə] (doas [doəs]) 「箱」

→複数形 doazen [dóəzən]/縮小形 doaske [dwáskə]

次の語では複数形からの類推で単数形に「割れ」が及んでいると考えられる (Tiersma 1986 : 5)。

earm [jərm, Iərm] 「腕」←複数形 earmen [jérmən]

goes [guəs]/guos [gwos] 「アヒル」←複数形 guozzen [gwózən]

一般に複数形で「割れ」を起こさなければ、縮小形や派生語、合成語でも「割れ」は起きない傾向がある。

☞ (c)で述べた次の語(変化形からの類推を受けた形容詞)を参照。

skjin [skjɪn] 「清潔な」 toar [twar] 「不毛な」

③ 固有名詞

固有名詞として固定した語では「割れ」が保たれやすい。たとえば、east [Iəst] 「東」とその普通名詞の派生語や合成語では「割れ」が起きないのにたいして、Easter- [jəstər]ではじまるフリースラントの伝統的な地名(後半部にアクセントがあることに注意)はすべて「割れ」を起こす (Van der Meer 1986 : 45)。

Eastersee [jəstərsé:] 「イエステルセー(オ. Oosterzee オーステルゼー)」

Easterwierrum [jəstərvjĪrəm] 「イエステルヴィイールム(オ. Oosterwierum オーステルヴィールム)」

Easterwâlde [jəstərvó:də] 「イエステルヴォーデ(オ. Oosterwolde オーステルヴォルデ)」

ただし、East- [Iəst] ではじまる地名はこれ以外の比較的最近の語彙に用いる傾向があり、「割れ」を起こさない。

Eastenryk [Īəstənrik] 「オーストリア」

Eastfries [Īəstfriəs] 「東フリースラントの人」

(3) 「割れ」と短母音化

「割れ」と短母音化は共通点が多い。ともに特定の語彙を対象として、別

の音節や子音が後続したときに、名詞の複数形と縮小形、派生語、合成語などで起こり、形態論的に果たす役割が大きい。この点で両者は機能的にドイツ語のウムラウト（ド、Umlaut）に似ている。「割れ」を起こした二重母音は、音声学的に見て全体として同時に短母音化を起こしている（Tiersma/De Graaf 1980, De Graaf 1985）。

また、両者ともアクセントを置かずに早口で発音したときに起こりやすい。たとえば、前置詞 foar 「..の前に」は [fwar] ([far, fər]) のようにふつう「割れ」を起こすが、強調して発音すると「割れ」は起こりにくく、[foər] となりやすい（Tiersma 1979 a : 40）。一方、数字の twa 「2」は単独で用いてはつきり発音すると、[twa:] のように長母音だが、他の名詞とともに用いると、twa [twa] beammen 「2本の木」のように短母音を含んだ発音になりやすい（Tiersma 1979 a : 84 f., Tiersma 1985 : 20）。

さらに、「割れ」を欠く方言では他の方言で「割れ」を起こす場合に短母音化が認められることがある（Van der Meer 1985 : 8 f.）。たとえば、「割れ」を示さない南西部方言（Súdwesthoeksk）では、次のような標準語の「割れ」による交替のかわりに

beam [bləm] 「木」→複数形 beammen [bjémən]

次のような短母音化による交替が見られる（Miedema 1958 : 150 ff.）。

beem [bɛ:m] 「木」→複数形 bemmen [bémən]

標準語でも sliepe [slíəpə] 「眠る」（古フ. slēpa）の変化形には sliep- [sljɪp-] と slep- [slɛp-] の両方の形がある（(1)(b)④, § 9 (1)(c)①参照）。後者の slep- [slɛp-] は古フリジア語 slēpa にさかのぼる長母音 ē [ɛ:] が短母音化を起こした語形である。そのほかにも、次の語のように両方の語形が辞書に記載されている場合がある。

brief [bríəf, brɪ:f] 「手紙」→縮小形 briefke [brjífkə, brɪfkə]

（Zantema 1985 : 139, WFT 3 1986 : 204）

bloei[e] [blú(:)jə] 「咲く」（古フ. blōia）→派生語 blossem [blósəm]/

bluossem [blwósəm] 「花、開花」（Zantema 1985 : 117 f., WFT 3 1986 : 2 変更）

短母音化は西フリジア語使用地域全体に広がっており、歴史的にかなり早い時期にさかのぼるものから、比較的后代に由来するものまでさまざまな現象を含んでいる。一方、「割れ」はおそらく17世紀後半に大陸の一部の方言を起源とするとされる (Van der Meer 1985 : 39 ff.)。両者の歴史的な関係には不明な点が多いが、歴史的に「割れ」は短母音化の一部の特殊な場合と考えられる可能性もある (Tiersma 1979 a : 95, Boersma/Van der Woude 1981² : 50)。

- ☞ 従来、「割れ」は18世紀に起こったといわれてきた。しかし、最近の研究によれば17世紀後半を起源とするとされる (Van der Meer 1985 : 39 ff.)。17世紀前半に活躍したギスベト・ヤーピクス (Gysbert Japicx 1603-1666) の作品には「割れ」は十分に表記されておらず、「割れ」の引き金になったと思われるくんだり二重母音の短母音化だけが認められるにすぎない。
- ☞ 音韻変化としての「割れ」の性格についてはふたつの意見が対立している。まず、Tiersma (1979 a, 1986) によれば、「割れ」はかつては現在よりもずっと広い範囲を対象として規則的な音韻変化として起こったものの、種々の制約によって十分に実現せずに弱まり、後の時代に語彙的・形態的に固定したものと述べている。それにたいして、Van der Meer (1985) は資料的にその証拠はなく、「割れ」は特定の語彙だけを対象とする散発的な現象として始まり、最終的に規則化されるに至らないで終わったものとみなしている。Tiersma (1979 a, 1986) の意見は理論的に説得力があり、Van der Meer (1985) の意見は豊富な資料に裏付けされている。

参考文献

- Bangma, Jelle. 1993². *Wolkom! Kursus Frysk ferstean en lêzen*. Ljouwert. AFUK.
- Boersma, J./G. van der Woude 1981². *Spraaklear* I. Ljouwert. AFUK.
- Booij, Geert. 1988. "Complex nuclei and breaking in Frisian". *Vrije Working Papers in Linguistics* No. 30. Amsterdam. 1-35.
- Booij, Geert. 1989. "On the representation of diphthongs in Frisian". *Journal of Linguistics* 25. 319-332.
- Bosma-Banning, A. 1981². *Bâter, brea en griene tsiis : Grammofoanplatekursus Frysk*. Ljouwert. AFUK.
- Cohen, A./C.L. Ebeling/K. Fokkema/A.G.F. van Holk. 1978². *Fonologie van het Nederlands en het Fries*. 's-Gravenhage. Nijhoff.
- De Graaf, Tseard. 1985. "Phonetic aspects of the Frisian vowel system". *Nowele* 5. 23-40.

- De Graaf, Tjeerd/Peter Tiersma. 1980. "Some phonetic aspects of breaking in West Frisian". *Phonetica* 37. 109-120.
- De Haan, Germen. 1988. "Nasalearring en rekking yn it Frysk". Yn: Siebren Dyk/Germen de Haan (útj.). *Wurdfoarried en wurdgrammatika: In bondel leksikale stúdzjes*. Ljouwert. Fryske Akademy. 45-59.
- Dijkstra, F.B. 1992². *Stavering*. Ljouwert. AFUK.
- Fokkema, Klaas. 1967². *Beknopte Frieske spraakkunst*. Groningen. Wolters.
- Heuser, Wilhelm. 1903. *Altfriesisches Lesebuch: Mit Grammatik und Glossar*. Heidelberg. Carl Winter.
- Hoekstra, Jarich. 1988. "Wêrom brekt [o.ə] ta [wa]?" *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 4. 48-53.
- Hof, J.J. 1933. *Friesche dialectgeographie*. 's-Gravenhage. Nijhoff.
- Holthausen, Ferdinand/Dietrich Hofmann. 1985². *Altfriesisches Wörterbuch*. Heidelberg. Carl Winter.
- Liberman, Anatoly. 1987. "Review of G. van der Meer, *Frisian 'breaking'*. *Aspects of the origin and development of a sound change* (1985)". *Lingua* 73. 125-130.
- Miedema, H.J.T. 1958. "De nieuwfriese breking en zijn verspreiding". *Taal en Tongval* 10. 148-156.
- Riemersma, Trinus. 1979. *Sylabysjerring, nazzaljerring, assymyljerring*. Ljouwert. Koperative Utjowerij.
- Sipma, Pieter. 1913. *Phonology & Grammar of Modern West Frisian*. London et al. Oxford University Press.
- Sjölin, Bo. 1969. *Einführung in das Friesische*. Stuttgart. Metzler.
- Steller, Walther. 1928. *Abriß der altfriesischen Grammatik*. Halle (Saale). Niemeyer.
- Tiersma, Piter Meijes. 1979a. *Aspects of the phonology of Frisian based on the language of Grou*. Stúdzjerjochting Frysk oan de Frije Universiteit yn Amsterdam. Meidielingen. Nûmer 4. Amsterdam. Vrije Universiteit, Studierichting Fries/Fryske Akademy.
- Tiersma, Peter Meijes. 1979b. "Breaking in West Frisian: A historical and synchronic approach". *Utrecht Working Papers in Linguistics* 8. 1-41.
- Tiersma, Pieter Meijes. 1985. *Frisian reference grammar*. Dordrecht/Cinnaminson. Foris.
- Tiersma, Piter. 1986. "Comments on the development of breaking". *Us Wurk: Tydskrift foar frisisityk* 35. 1-11.
- ULIS, rige A1-20, rige B1-20, rige C1-20. 1978-1984. Ljouwert. AFUK.
- Van der Meer, Geart. 1977. "Frisian breaking: A hypothesis about its historical

- development". *Us Wurk : Tydskrift foar frisistyk* 26. 9-24.
- Van der Meer, Geert. 1985. *Frisian 'breaking' : Aspects of the origin and development of a sound change. Estrikken* 66. Grins/Groningen. Stifting FFYRUG.
- Van der Meer, Geert. 1986. "Frisian 'breaking'". *Nowele* 8. 33-56.
- Visser, Willem. 1985a. "Ta de nasalearring yn it Frysk". *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 1. 33-49.
- Visser, Willem. 1985b. "Ta de nasalearring yn it Frysk (diel II)". *Tydskrift foar Fryske Taalkunde* 1. 69-89.
- Visser, Willem. 1990. "Breking en de gevolgen". *TTT (Interdisciplinair Tijdschrift voor Taal- & Tekstwetenschap)* 9. 255-272.
- WFT: *Wurdboek fan de Fryske taal* 1. a-behekst. 1984-11. klerkje-krúskaam. 1994. Ljouwert/Leeuwarden. Fryske Akademy/De Tille.
- Zantema, J.W. 1984. *Frysk Wurdboek. Frysk-Nederlânsk*. Drachten/Ljouwert. Osinga/Fryske Akademy.